

広島県備後地方および岡山市周辺の犬、 猫における東洋眼虫 *Thelazia callipaeda* の感染率

森重和久¹⁾ 斎藤哲郎²⁾ 前田 茂³⁾ 頓宮廉正⁴⁾

(掲載決定:平成4年7月10日)

Key words: *Thelazia callipaeda*, infection rate, dog, cat, Okayama, Bingo District

東洋眼虫 *Thelazia callipaeda* の犬における感染は主に九州全域から報告されている(永田, 1964)。ほかに山口(中元・梶山, 1987), 愛媛(久保田, 1977), 兵庫(戸田ら, 1973), 大阪(野田・大西, 1972; 栗本ら, 1973; 大西ら, 1974), 京都(有蘭ら, 1976; 塩田ら, 1975), 神奈川(鈴木ら, 1978)など関東以西の各地で報告されている。また猫における症例も宮崎(永田, 1957), 山口(内田・梶山, 1983), 兵庫・大阪(栗本ら, 1974)から報告されている。しかし中国地方の広島, 岡山における犬や猫の感染例の報告はまだない。

著者は岡山市, 福山市, 三次市の三獣医科病院を受診した犬と猫の東洋眼虫感染状況を検査し, これらの地域の犬や猫における浸淫状況を調査した。受診した犬, 猫はこれら三市周辺の市町村からも来院しており, 正確には広島県備後地方および岡山市周辺からであった。

検査は両眼の結膜嚢における虫体の有無を肉眼的にしらべた。調査期間は福山が1971~1992年までの22年間, 三次が1975~1991年までの17年間, 岡山が1986~1988年までの3年間である。

虫体は形態的にみても東洋眼虫 *Thelazia callipaeda* と同定した。感染率(Table 1)は犬では0.02~0.05%の低い感染率であった。さらに福山の1980年と1987年の2例は検査1週間前に大分県佐伯市よりつれ帰った犬の例で期間的にみて九州で感染したものと考えられ, これを除外すると感染率はさらに0.03%に低下する。同じく獣医科病院を受診した犬でも京都における有蘭ら(1976)の調査では約3.4%という高い感染率を示している。さらに古く岡村(1967)の熊本における犬の調査では平均14.2%もの高感染率を記録している。これらの結果は中間宿主のマダラメマトイの地理的な分布密度に差があるためと考えられる。しかしこの点に関する調査はまだない。

猫における感染例については現在までわずかに三報(永田, 1958; 内田, 1983; 栗本ら, 1974)があるだけである。今回, 岡山で3頭(0.06%)および福山で2頭(0.04%)の少数ながら症例が出ており, 犬と同じくらいの寄生率で猫にも感染していることがわかった。中国地方では人体症例は下田(1986)およびMiura *et al.* (1989)が岡山から報告しているだけである。本線虫は犬や猫に感染率は低いとはいえ広く蔓延しており, 中間宿主も広く全国に分布している(素木, 1968)ことを考えると, 今回調査した地方でいつ人体症例が発生してもおかしくはない人畜共通感染症の一つといえる。

文 献

- 1) 有蘭直樹・吉田幸雄・近藤刀王至・栗本 浩・織田清・塩田恒三・嶋田義治・萩野賢二(1976)京都における *Thelazia callipaeda* Railliet and Henry, 1910の人および犬における寄生, および本虫の走査電顕像について. 寄生虫誌, 25, 402-408.
- 2) 久保田直(1976):愛媛県大洲市およびその近郊における犬の東洋眼虫寄生例. 日獣誌, 30 (Suppl.), 83.
- 3) 栗本 浩・織田 清・近藤刀王至(1973):大阪府下の犬における東洋眼虫の寄生例. 日獣誌, 26 (学会号), 637.
- 4) 栗村 正・戸田興三・山本忠久・砂田耕二郎・菅瀬浩道(1974):兵庫県下および大阪府下の猫にみられた東洋眼虫の寄生例について. 日獣誌, 28 (Suppl.), 51.
- 5) Miura, A., Li, H., Katayama, T., Kameda, H., Fujiwara, H., Shimoda, K. and Tokunaga, T. (1989): A case report of thelaziasis callipaeda. Kawasaki Med. J., 15, 159-163.
- 6) 素木得一(1968):衛生昆虫, 第3版, P. 836, 北隆館, 東京.
- 7) 永田良胤(1958):眼虫 *Thelazia callipaeda* Railliet et Henry 1910の吾が国における発見とその

¹⁾ 岡山大学医学部寄生虫学教室

²⁾ 斎藤獣医科病院

³⁾ 前田動物病院

⁴⁾ 岡山大学医療技術短期大学部

Table 1 Infection rate of *Thelazia callipaeda* in dogs and cats in Bingo District and Okayama City

Locality	Examination period	Dogs		Cats	
		No. examined	No. infected	No. examined	No. infected
Fukuyama	1971~1992	10,500	5 (0.05%)	5,250	2 (0.04%)
Miyoshi	1975~1991	5,100	1 (0.02%)	1,700	0
Okayama	1986~1988	11,914	6 (0.05%)	4,631	3 (0.06%)
total		27,514	12 (0.04%)	11,581	5 (0.04%)

(The data in Okayama City were reported at "Nihon Rinsho Jui Gakkai" in Chugoku District, 1988)

の分布について. V. 本虫の吾が国における分布その第2報. VI. 虫体各部の計測値について. 日獣誌, 20 (学会号), 317.

- 8) 永田良胤 (1964): 東洋眼虫 *Thelazia callipaeda* の研究. 寄生虫誌, 13, 600-602.
- 9) 中元 緑・梶山松生 (1987): 山口県下の飼犬に寄生していた東洋眼虫 (*Thelazia callipaeda*) の1症例. 日獣誌, 40, 373-377.
- 10) 野田亮二・大西良昭 (1972): 大阪府下の犬における東洋眼虫の寄生例. 寄生虫誌, 21, 47.
- 11) 岡村一郎 (1967): *Thelazia callipaeda*. 医学のあゆみ, 61, 273-275.
- 12) 大西良昭・谷野 徹・柴田喜代志・野田亮二 (1974): 東大阪における犬の東洋眼虫の寄生例. 大阪府獣医師会報, 28号, 35-36.
- 13) 塩田浩三・嶋田義治・近藤刀王至 (1974): 京都市の犬における東洋眼虫の寄生例. 日獣誌, 28 (Suppl.), 51.
- 14) 下田健治・赤堀忠生・佐藤あい子・鈴木了司 (1986): 岡山県で見いだされた東洋眼虫の人体寄生例. 川崎医学会誌, 12, 189-192.
- 15) 鈴木立雄・内田明彦・板垣 博・馬場国敏 (1978): 川崎市内のイヌにみられた東洋眼虫 (*Thelazia callipaeda* Railliet et Henry, 1910) の一寄生例. 日獣誌, 31, 458-461.
- 16) 戸田興三・砂田耕二郎・栗村 正・山本忠久・菅瀬浩道 (1973): 兵庫県川西市の犬に寄生した東洋眼虫の寄生例について. 日獣誌, 26 (学会号), 637.
- 17) 内田明彦・梶山松生 (1985): 山口県下の飼猫に寄生していた東洋眼虫 *Thelazia callipaeda* について. 日獣誌, 38 (学会号), 66.

Abstract

INFECTION RATE OF *THELAZIA CALLIPAEDA* IN DOGS AND CATS
IN BINGO DISTRICT AND OKAYAMA CITY

KAZUHISA MORISHIGE¹⁾, TETSURO SAITO²⁾, SHIGERU MAEDA³⁾ AND
YASUMASA TONGU⁴⁾

¹⁾Department of Parasitology, Okayama University Medical School, Okayama 700, Japan;

²⁾Saito Veterinary Hospital, Matsuhama-Cho, Fukuyama-Shi 720, Hiroshima, Japan;

³⁾Maeda Animal Hospital, Shikishima-Cho, Miyoshi-Shi 728, Hiroshima, Japan;

⁴⁾School of Health Sciences, Okayama University, Okayama-Shi 700, Japan

Infection rate of *Thelazia callipaeda* in dogs and cats was surveyed in Bingo District and Okayama City. A total of 27,514 dogs and 11,581 cats were macroscopically examined by turning eyelids. Twelve dogs (0.04%) were infected with adult *T. callipaeda* worms in those areas. The infection was also found in 5 cats (0.04%) from Fukuyama and Okayama areas.